



蒲田交信局



皆様こんにちは。平素より株式会社 城南村田をご愛顧いただきまして、誠にありがとうございます。先月に引き続き寺田 匠児でございます。

今回は私の「一生懸命がんばった思い出」について書きたいと思います。稚拙な文章ではありますが、どうぞお付き合いください。

私は大学時代、アメリカはミシガン州に短期留学をされており、私はそのミシガン州はホランドという場所に滞在しておりました。

ホランドはミシガン湖のほとりにある街であり、ミシガン湖を挟んだシカゴまでは車で 3 時間、アメリカ国内の乗継便と車産業で有名なデトロイトへは車で 2 時間と、とても好立地な場所にあります。緯度は北海道よりも少し高いところにあるので夏はとても過ごしやすく、また夜の 20 時半になってもまだ日が沈まないといった、日本から見ると狐にでも化かされているような気分になる不思議な街です。さっき食べたご飯が昼食だったか夕食だったか？なんてこともちらほらありました。…これに関しては各ご飯の後に必ず私を連れて街のアイスクリーム屋さんに繰り出すルームメイトのせいもあったと思います(笑)とにかく、見るもの聞くもの 触れるものの全てがカルチャーショックを受けるものばかりでした。

私がそこで何をがんばったのか？それは留学前に立てたある目標を達成することでした。その目標は「必ず毎日一回以上、現地の学生を自分のギャグで笑わせる」というものでした。初めのうちは緊張と慣れない英語のせいで、一日一人を笑わせるのがやっとでしたが、一週間もするとアメリカの空気にも慣れ、また友人が友人を呼ぶことでたくさんの現地学生と交友を深めることができたので、毎日たくさんの人の笑顔を見ることができました。帰国の際、早朝にも関わらず総勢 30 人以上の現地学生が見送ってくれたことは、今でも心に残る良い思い出です。

「何事も経験！」をモットーにしている私は、この時培ったチャレンジ精神を忘れることなく、これからも様々なことに体当たりでチャレンジして参りたいと思います(笑)

これからも株式会社 城南村田と寺田 匠児を、どうぞよろしくお願ひいたします。



株式会社 城南村田 かわら版

蒲田交信局



いつも大変お世話になっております。営業部の川原と申します。
久しぶりに当番が回ってきました。今回は30年以上も前の話になりますが、“一生懸命がんばった思い出”について書かせていただきます。
学生時代にスポーツに打ち込んだ方は多いと思いますが、私は社会人になってからアメリカンフットボール(アメフト)のプライベートチームの入部し、結婚を機に(29歳)引退するまでプレーをしていました。
もともとはラグビーを経験してみたかったのですが、なかなか参加させてくれるチームが見つからず(経験者希望のチームが多かった)、ある時スポーツ雑誌のメンバー募集欄に品川区のアメフトチームで未経験者歓迎の募集を見つけ、ラグビーとあまり変わらないかと軽い気持ちで練習を見に行き、その頃は体力には少々自信があったので即、入部しました。
実際にはラグビーとはかなりちがいましたが。
初心者の私にとって、まず防具(ヘルメットやショルダーなど)を付けて走ったり、ボールキャッチに慣れるのに本当に苦労しました。
あの頃は、上手くなりたい一心で仕事よりも熱が入っていたかもしれせん。
毎週日曜日は練習で決して強いチームではありませんでしたが、やはり試合に出るからには勝ちたいとの思いで一生懸命に練習もしましたし、私にとっては頭の切り替えにもなり、他の事を忘れて夢中になれるときでした。試合後の打ち上げや合宿は本当に楽しかったです。
チームのメンバーは大学生から社会人まで職種もさまざま、会社以外の人と接することもでき、貴重な経験でした。
今でもOB会があったり、たまに飲みに行ったりとか、一生付き合える仲間ができたのもこのチームに参加できたからです。
ただ、アメフトの後遺症?か、30代半ばくらいから歯がボロボロになり始め、ちなみに前歯3本は差し歯で(焼き鳥屋で何度とれたか。。。)奥歯はボロボロになってしまいました。
今でも歯が気になり、特にトウモロコシはガツガツたべられません。
あ〜ッ。思い切りかじってみたい。。。。

以上